

# 住民自治協議会だより

第 6 号

発行：小田切地区住民自治協議会 自治協だより編集委員会

## 長野市議会議員一般選挙執行される

9月18日執行の市議選は、定数39を候補者46人が争う激戦であった。投票率は46.32%で、前回49.71%から3.39%の減であった。小田切地区は56.24%で32地区中8番目の投票率であった。最高は中条地区の83.21%、最低は第5地区の37.68%となっている。期日前投票については、投票者数26,973人で前回より6,466人の増加となった。また、今回「暫定措置」として実施された支所期日前投票時間の延長については、午後5時から午後7時までの投票者が3,066人であり、他の時間帯と比較しても遜色ない状況であった。ちなみに小田切支所では2人であった。投票時間の全支所一律という考え方を再考する数字ではないだろうか。投票日の最高気温は34.8度と異常高温で、前回市議選（最高気温25度）と比べて、暑い気温が投票率を下げた一因ともいえる。

投票日の投票管理者・立合人・事務従事者皆様の御苦労に対して心より感謝申し上げます。



## ◆◆ 選挙ひとロメモ ◆◆

衆議院の選挙は「第〇回衆議院議員総選挙」という。欧米の下院にあたるもので、定数は何度も改正があったが現在は480人。国民の26.5万人に1人の割合となっており、諸外国と比べても少ない方である。

ちなみに戦後任期満了での選挙は、三木内閣の時の1回のみ。25歳以上が被選挙権を有する。

参議院の場合は「第〇回参議院議員通常選挙」という。定数は242人となっており、欧米の上院にあたるもの。30歳以上が被選挙権を有する。

## 住民自治協議会に感謝状



11月6日、小田切錬成センターで行われた第二期信州里山塾の修了式で、高木亜矢子塾長から小田切住民自治協議会に対して、里山塾運営に多大な貢献をしたとして、感謝状が贈呈されました。

信州里山塾は親子による農業体験。昨年度の第1期に続き、今年も小田切を舞台に行われたもので市内の小学生と保護者20組50人が参加して、5月から行われました。

プログラムは以下の通りです。

5月21日	豊作祈願、枝豆播種、田植え
6月5日	サツマ芋植え付け
8月27日	枝豆収穫、大根播種
9月23日	稲刈り、はぜかけ
10月8日	サツマ芋収穫、脱穀
11月6日	大根播種、餅つき大会、修了式

修了式で高木塾長から修了証書の交付を受けた塾生たちは「田植えが気持ちよかった」「小さな種から大根が大きくなり驚いた」「稲刈がおもしろかった」等と感想を語り、目を輝かせていました。

一方、「好き嫌いがなくなりました」「友達ができた」と笑顔で話すお母さん。「粘り強くなりました」と言うお父さん。「お弁当を残さず食べるようになった」と成長を喜ぶ保護者。塾生達は大きな成長を見せました。

ミスマシ、蛙に驚き、カマキリやキリギリスを追い掛けては飛び回る子供たち。信州里山塾の開設は小田切に一時の元気を与えてくれました。同時に小田切の野菜やお米は美味しいという評価を得ました。

残念ながら、来年は若穂地区で行われます。

指導に当たったのは、宮尾正明環境・地域活性化部会長、上野修遊休農地活性化委員会会長、宮尾寿同副会長、酒井昌之住民自治協議会会長の4名でした。

## 道路の工事状況

県道小川長野線、入山小市線の道路改良工事は、同盟会や愛護会からの働きかけによって、徐々にではありますが進んでいます。しかし、県財政が厳しいこともあり、予算の確保は困難を極めています。

そうした中で23年度は、小川長野線では、田中東地区の用地交渉がまとまり、着工待ちとなり、入山小市線についても、長年の懸案であった深沢地区の橋の改良工事が着工の見通しとなっています。

一方、市道矢平保玉線（全長4,781m）については、仏工伝手前において法面工事が完成し、現在同集落の先において改良工事を施工中です。

飯森新橋線につきましては、本年3月両郡橋の中央分離帯のコンクリート壁が視界を遮り、対向車を視認しづらい現状を長野国道事務所に訴え、改善策を実施していただきました。



県道入山小市線 深沢地区



県道小川長野線 田中東地区



市道矢平保玉線 仏工伝地区

## 有害鳥獣防除対策に補助金

小田切地区住民自治協議会では、「農業振興を図るため」に農業振興事業補助金を交付します。交付の対象となる者は、地区負担金を納入していることが条件です。その中で、近年頻発しているイノシシの被害に対抗するための、捕獲檻を設置した場合 $\frac{3}{10}$ の補助をいたします。補助要件としては、「地区有害鳥獣対策協議会」または、集落が実施する有害鳥獣防除対策活動であり、構成員の中に狩猟免許保持者を有することとなっています。詳しいことは事務局にお尋ね下さい。



## 自治協保険ってなに？

住民自治協議会では、協議会が企画、立案し、総会で決定された活動および行事中のケガ等に対して、保険を掛けています。対象となるのは、小田切地区に生活の本拠を有する人となっています。活動に参加する目的をもって通常の経路により住居を出発してから住居に帰るまでの道中も対象です。

賠償区分は次のとおりです。

・賠償責任	1億円
・死亡・後遺障害	3百万円
・入院	2千円
・通院	1千円

なお、詳しいことはその都度事務局にご相談下さい。

## ひ と 言

環太平洋連携協定（TPP）に野田総理は、「交渉参加に向けて関係各国と協議に入る」といった言い方をした。考えなければならないのは、欧米の大学は入学はしやすいが卒業は難しいという。日本の大学は入学は難しいが卒業は比較的易しい。日本の大学に入学するつもりで協議に入ると、難問山積の卒業試験で頭をかかえ込んでしまう事態になるかもしれない。そこでクラスメートである米国がいくつかのヒントを教えてくれる。曰く、米国の至上命題である「輸出増、失業者減、財政再建」という禁断の果実だ。しかし、一番大切な命題である「日本の国益」を忘れてはならない。

## 防災訓練を実施



晩秋の10月30日、支所と住自協共催による防災訓練が行なわれました。

当日は、朝8時20分に国見区、千木区の区長より道路の法面崩落により、県道小川長野線と県道入山小市線が通行不能状態になっているとの連絡を、支所長が自宅で受けるという形で始まりました。

地震、集中豪雨により、被害が拡大する恐れがあるため支所、公民館職員全員の招集とともに、自治協会長と協議のうえ、現地災害対策本部を設置。

区長会長より全区長に携帯電話で、地区公民館等への住民の避難誘導、地区の被害状況の調査を実施するよう依頼がなされました。続いて、住自協会長→副会長→副副会長のルートで小田切公民館へ集合するようにと連絡がなされました。連絡はいつでも携帯電話を用いて行なわれました。これは、災害により電話回線が寸断されている状況を想定してのものでした。その後、各区長より負傷者の救助依頼が入り、消防局に通報と同時に誘導車の手配を行ないました。当日は、地元消防団の皆様にも特別に地区区長さんの指揮下に入っただき、負傷者の救助に当たっていただきました。

災害はいつ発生するか予測不能です。しかし、いざ発生した場合は、まず自分、家族の避難が第一。続いて近所の負傷者の救助です。過去の震災でも、近所同士の助け合いが強い地域が良い成果を上げています。

今回の訓練は、各地区の区長さんを中心として、地区住民の避難誘導、救助、被害状況の本部への連絡をメインに行なわれました。ところによっては携帯電話が通じない場所も確認され、今後の課題の1つに上げられました。

## 地震対策について

### <住宅耐震補強補助事業>

交付目的	今後予想される地震災害に対して、市民の生命・財産を守ることを目的とし、住宅耐震補強工事費の一部を補助し、既存住宅の耐震性能の向上を図る
------	---



## 福祉委員会の研修行なわれる

11月9日に福祉委員会の研修会を実施しました。

当日は、長野市社協の松本係長を講師にお招きし、「福祉委員会の役割について」のお話を聞きました。

福祉委員は、地区選任委員、民生児童委員、住自協の福祉、健康部会構成団体代表及び職員で構成されています。それぞれの団体の位置づけ、性格、役割は同じではありませんが、地区の福祉に対する思いや目的は共通のものです。そんな私たちに今回の研修は活動の担い手（実践者）として「気づき・受止め・つなぐ」事の大切さを再認識させてくれたと思います。

研修の前半は資料によるもので、地区の役員として「何をするのか？」という疑問に方向性を示していただき、その役割を確認するものでした。

講義に続いて個々が頼み上手か、頼まれ上手かを知るカードゲームを行いました。紙で作った金券と自分がやって欲しい作業内容を記入したカードを5～6人のグループ内で交換し合い、最後に残った枚数で自分の個性が分かるものです。手元に残った枚数が多くても少なくとも、助け合いの共助活動に繋がるものです。

福祉委員は「地域福祉活動計画」の中核的存在です。今回の研修を生かし、地区の福祉に役立つ存在でありたいと改めて確認した研修でした。

\* \* \*

対象者	市内に存する昭和56年5月以前に着工した住宅（賃貸住宅を除く）の所有者で、前年の所得が一定額以下の方
対象事業	①木造戸建て住宅の場合 市の精密耐震診断（無料）を受け、総合評点が1.0未満となった住宅を、耐震補強工事により総合評点0.7以上かつ工事前を上回るものとする工事 ②非木造戸建て住宅、分譲マンションの場合 耐震判定委員会の評価・判定を受けた設計に基づいて行う工事
補助率及び補助額	耐震補強に直接かかる工事費の2分の1以内、かつ限度額 60万円/戸

## 健康食を学ぶ

保健補導員会では、10月13日「若い世代に伝えたい地元の食材を使った健康食～子どもに適したおやつとは何だろう～」をテーマに、子どもたちにも喜ばれ、自分自身の生活習慣病予防にもつながる健康食を学ぶために、講習会を開催しました。前半の講義で健康課柳澤栄養士が「血糖を低下させるホルモンであるインスリンは限りがある」「枯渇させないためには食事の内容、取り方に気をつける」「子どもは大人の4倍のインスリンを出さなければ同じ量の砂糖を処理しきれない」「野菜の栄養素は細胞を作るときに必要な」など、インスリンの大切さと野菜を食べることの大切さを話されました。後半の実習では、「野菜の肉巻き蒸し」「野菜シチュー」そして、残ったシチューをアレンジし、子どものおやつにも適する「お好み焼き」を作りました。

1食分の摂取カロリーや塩分量を正確に学ぶために、1人1食分をしっかりと作り、食べました。調理実習では、3グループに分かれレシピ通り同じものを作りましたが、ハプニングもあり、グループの個性がそれぞれ感じられる料理が出来上がりました。食後の感想では「1食分の量が意外に多くて驚いた」「塩気が物足りない。でもこれが健康の味なのよね」「子どもや家族にこの味を覚えさせていきたい」といった声が聞かれました。今年は女性だけの講習会でしたが、来年は男性の方にもご参加いただき、ぜひ「作って食べる、笑い溢れる健康食講習会」の楽しさを感じていただけたらと思います。



## 東日本大震災義援金

3月以降、多くの皆様から御寄附をお寄せいただき本当にありがとうございました。11月30日までに15万円になりました。引き続き、来年の3月まで受付しておりますのでよろしくお願いいたします。

◆◆ たすけ合おう 日本 ◆◆



## 秋の叙勲に 山上 泰さん

平成23年秋の叙勲の受章者が、10月25日の閣議で決定され、11月3日発令されました。

小田切地区では、塩日方の山上泰さんが長年にわたる消防功労により、瑞宝単光章を受章されました。

山上さんは、長野市消防団小田切分団長を最後に消防団活動を終えられました。本当におめでとうございます。

## 福祉自動車は助け合い活動

福祉自動車は、高齢の方や障がいをお持ちの方が安心して通院や、リハビリに通うためになくてはならない大切な車です。

もし、この福祉自動車「ふれあい号」がなければ、病院に行きたい場合、タクシーを使うなり、息子や娘に、仕事を休んで連れて行ってもらわなければなりません。

今年度の福祉自動車の利用状況は、11月末現在約96%。運行可能日150日に対し、運行日は145日。つまり、福祉自動車が動かなかったのは、たったの5日だけの大忙し自動車なのです。

現在、利用会員は70名。協力会員は11名。運転をして下さる方は、地域の役員をいくつも兼ねていたり、農業をやっている方が多く、大変忙しい方が多いのですが、快く協力していただいています。

福祉移送事業は、地域にお住まいの方同士による「お互いさま」の気持ちを大切に、助け合い活動です。誰もが「お互いさま」の心を持って支え合い、助け合う地域にしていきたいものです。

